

氏名	見 市 昇
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 2214 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 12 月 31 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	ブタ同所性肝移植における術中循環動態の研究 —とくに麻酔法と無肝期バイパス流量の検討—
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 辻 孝夫 教授 小坂二度見

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

同所性肝移植手術における無肝期体外バイパス中、バイパス解除時の循環制御は重要であり、移植肝の機能発現のためには良好な循環動態が必要条件である。そこで麻酔法およびバイパス流量の点から循環動態を検討した。

ほぼ同型の 2 頭の子ブタを用いて同所性肝移植を行ない無肝期は Y 型 Veno-Venous バイパスで維持した。術中に心電図、動脈圧、肺動脈圧、心拍出量、肺動脈楔入圧、中心静脈圧を測定し比較検討した。

NLA 麻酔、GOF 麻酔、GOS (Sevoflurane) 麻酔の比較では GOS 麻酔で最も良好に循環動態が維持され、NLA 麻酔では動脈圧維持、バイパス解除後の心拍出量の回復が不良であった。バイパス流量の比較では高流量群の方が低流量群に比べて心拍出量が良好に保たれ肺動脈圧も安定していた。輸液量を一定に保ったバイパスモデル実験の結果も同じ傾向を示し低流量群は安全域とは考えられなかった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肝移植に関する研究であるが、豚を用いて実験的に同所性肝移植を行い、無肝期体外バイパス中のバイパス流量と麻酔法を中心に、術中の循環動態を検討したものであって、移植肝の機能発現のための良好な循環を得るための重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。